

主要科目の特長・科目ごとの目標等

○共創文化学部

・心理学科

「心理学概論」

心理学の成り立ちと学問的特徴、心理学が明らかにした人の心の基本的な仕組み及び働きを学修する。心理学は、科学的方法を駆使して、「こころ」についての研究を行う学問である。この授業では、心理学の歩みと様々な研究を紹介し、心理学の全体像を理解し・基礎的知識を修得することを目標とする。現代心理学全般を学ぶが、主に、心理学の歴史から始め、環境を理解する感覚・知覚、人の発達過程、性格や個人差を研究する心理学分野を詳しく理解する。

「臨床心理学概論」

臨床心理学は、心理臨床を実践する際の基礎となる心理学であると同時に、より広い意味での自己理解・他者理解を促進するツールでもある。本講では、臨床心理学の基本的な概念について概説する。まず、乳幼児期から老年期に至るライフサイクルの各段階でみられることの多い心理不適応や障害などを扱っていく。さらに、こうした問題を援助技法するための各種アプローチと、臨床心理学的実践の各領域についても理解を深める。

「心理学研究法Ⅰ」

心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)、データを用いた実証的な思考方法、研究における倫理について学修する。そして心理学の研究方法について、基本的な考え方から、具体的実施方法や研究資料の分析方法を学び、身につける。第Ⅰ期では、実証的研究法(量的研究)として心理学研究に数多く採用されている、実験法と調査法について、その方法論や手続きを学び、理解する。さらに心理学研究における倫理について理解する。

「心理学研究法Ⅱ」

心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)、データを用いた実証的な思考方法、研究における倫理について学修する。そして心理学の研究方法について、基本的な考え方から、具体的実施方法や研究資料の分析方法を学び、身につける。第Ⅱ期では、実証的研究法として方法論的価値が見直されている観察法と面接法について、その方法論と手続きを学び、理解する。また、研究によって得られた心理学データ(資料)の分析について、統計的な理解を含め、その分析手続きを理解する。

「心理学統計法」

明確にとらえることが困難な人間の心を研究対象とする心理学は、実証的な科学の一領域として、観察・実験・調査などによって得られた実際の研究資料(観測データ)が必要であり、これに基づいて実証的に

研究をすすめなければならない。本講義では、観測データをどのように整理し、分析し、推論し、結論づけていくか、統計に関する基礎的な知識の習得を目的とし、心理学で用いられる統計手法を身につける。

「心理学実験Ⅰ」

心理学実験の知識・技術(①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識)を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚、記憶領域の基礎的実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料(データ)分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。

「心理学実験Ⅱ」

心理学実験の知識・技術(①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識)を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚、記憶領域の基礎的実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料(データ)分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。

「知覚・認知心理学」

人間の知覚及び認知機能の解明を目指す知覚及び認知心理学について、その歴史的背景から成立、さらに現代までの発展を概観し、その方法論的特徴を講義する。人の感覚・知覚等の機序及びその障害について学び、さらに人の認知・思考等の機序及びその障害について学ぶ。また、実社会への応用例として、教育場面、産業場面での実例を示し、知覚及び認知心理学的知見がどのように実社会に具体化され、生かされているかを検討し、今後の応用可能性について考察する。

「学習・言語心理学」

人間と動物と分ける最も大きな違いは、その卓越した学習及び言語能力に求められる。人は、考えることで、適応的な行動を選び、ことばを使って複雑な情報を伝達することができる。人の行動が変化する過程や、言語の習得における機序について、言語心理学、発達心理学、動物心理学の知見を交えながら人間の言語能力やコミュニケーションの性質・しくみについて学ぶ。

「感情・人格心理学」

人間理解の基礎となる、感情及び人格心理学の諸理論について学ぶ。感情に関する理論及び感情喚起の機序、そして感情が行動に及ぼす影響について理解を深める。また、人格の概念及び形成過程、そして人格の類型、特性等、さまざまな角度からパーソナリティの成り立ちを理解する。また、臨床心理学的援助の基礎となる、精神分析等の人格構造論についても学ぶ。

「神経・生理心理学」

「こころ」をつくりだしている脳神経系の構造及び機能を理解することを目的とする。授業では、記憶、感情等の生理学的反応の機序を含めて、神経細胞と脳の構造、機能の局在、視覚と脳、言語と脳、脳研究の現状等について説明を行う。また、高次脳機能障害の概要などについても説明し、脳神経系の障害と症状との関係について理解を深める。

「社会・集団心理学(社会・集団・家族心理学Ⅰ)」

「社会・集団」の心理をテーマに、心理学のなかでも「個人」から「集団」の心理まできわめて広範囲な心理的事象を研究対象とする社会心理学の基礎を概観する。個人の心理とは「自己」に関連する心理、集団の心理とは、家庭における「家族」、学校・職場といった「組織」、災害時などの「集合行動」、国によって異なる「文化」の心理などである。このような個人と集団の心理について、対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程、人の態度及び行動、集団及び文化が個人に及ぼす影響を取り上げる。

「家族心理学(社会・集団・家族心理学Ⅱ)」

家族を巡っては、非婚化、少子高齢化、離婚、非行、児童虐待、非行など様々な問題が指摘されている。それでは、家族とは一体何なのか、当たり前のように存在する家族について、家族心理学を柱としながら法律学、社会学等の多様な視点からも光を当て、社会とのかかわりや個人にとっての意味を考察していく。特に個人の発達課題と家族関係、家族も成長と変化を遂げるという家族ライフサイクル論を中心とした授業を行う。

「発達心理学Ⅰ」

発達心理学Ⅰでは、認知機能の発達及び感情・社会性の発達について学ぶことを目的とする。講義のなかでは、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達について理解を深めていく。また、発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方についても学び、適切な支援についての基礎的な知識を身につける。

「発達心理学Ⅱ(高齢者心理学)」

生涯発達の視点から老化を理解し、老化に伴う心理機能や身体機能の変化の特徴についての基礎的知識を習得するとともに、高齢者の社会的援助に対する心理社会的な視点を持つことを狙いとする。具体的には、高齢者特有の身体的な問題は、心理的な側面への影響が大きいいため、加齢に伴う身体機能の変化や疾病が心理機能にもたらす影響について学ぶ(認知症等)。

「障害者・障害児心理学」

身体障害、知的障害及び精神障害などの概要を理解し、障害者・障害児の心理社会的課題から必要な支援、支援の実際などについて概説する。また、福祉現場あるいは身近な事案などを用いた課題等に取り組むことで理解を深める。

「心理的アセスメントⅠ」

心理的アセスメントの目的及び倫理について学ぶことを目的とする。心理的アセスメントの観点及び展開について理解を深める。また、心理検査法の歴史、目的、種類について学び、特に質問紙法を中心に、統計的技法の基礎、心理検査法の作成・標準化過程について概客観的、実証的に心理検査法を活用する姿勢を身につける。

「心理的アセスメントⅡ」

心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について学ぶことを目的とする。観察、面接及び心理検査を通して精神状態を査定し行動を分析する方法について理解を深め、また、適切な記録及び報告の仕方を身につける。特に、投映法検査の被験者としての体験、検査者としての体験を通して、投映法に対する理解を深め、心理援助における投映法の役割を考察する。

「心理学的支援法Ⅰ」

代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界について学ぶことを目的とする。良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法を習得し、心理学的支援活動に活用できる能力と態度を育てる。また、来談者に対して個別に支援を行う従来型の活動のみならず、訪問による支援や地域支援の意義についても理解を深める。

「心理学的支援法Ⅱ」

心理学的支援法Ⅰで学んだ代表的な心理療法並びにカウンセリングの理解を深めるため、比較的長い事例を用いたグループディスカッション等の参加型の学習方法を通じて、対人援助を実践的に学んでいく。特に、プライバシーへの配慮や心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援なども取り上げる。また、予防的・啓蒙的な活動として、心の健康教育の意義や方法についても理解を深める。

「健康・医療心理学」

ストレスと心身の疾病との関係、医療現場における心理社会的課題及び必要な支援、保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援、災害時等に必要な心理に関する支援、などを学び、現代に生きる人々の健康の維持・増進や疾病の予防・治療、機能回復、健康管理システムなど健康・医療心理学の基本知識を身につけることを目的とする。

「福祉心理学」

福祉現場において生じる問題及びその背景、福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について学ぶことを目的とする。発達障害・適応障害・心身症など、生物的・心理的・社会的に重複した問題を抱える人々に対して心理学的に支援すると同時に、適切な社会的資源や医療的援助を導入して、対象者の生活の質を向上させていくサポートのあり方を学ぶ。また、虐待についての基本的知識を身につける。

「教育・学校心理学」

教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について学ぶことを目的とする。学校というコミュニティの制度や組織の特徴、関連する法律、風土や文化など、児童・生徒を取り巻く環境について理解を深める。また、児童期・思春期の心理的発達と臨床的に生じやすい問題について理解を深める。そして、不登校やいじめなどの問題への対応法について、事例を交えて具体的に考察し、適切な支援につなげる実践力を養う。

「司法・犯罪心理学」

非行や犯罪は社会を映す鏡と言われるように社会状況と無縁ではない。子どもの発達、家族関係、学校や地域社会といった多様な要因が絡み合って非行は発生する。本科目では、犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を学び、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援の力を身につけることを目的とする。

「産業・組織心理学」

職場における問題(キャリア形成に関することを含む。)に対して必要な心理に関する支援の力を身につけることを目的とする。組織における人の行動についての知識を学び、作業効率と安全、職業適性、モチベーションとリーダーシップ、メンタルヘルス対策、働く人たちのキャリア開発、職場におけるより良い人間関係や職場環境を作るための働きかけや援助など、実際の企業の取り組み例を踏まえて理解を深める。

「マンガと心理学」

マンガというメディアの特徴について国内外におけるマンガの現状を整理し、心理学においてマンガを取り上げる意義について学ぶ。また、心理学におけるマンガに関する研究をレビューし、どのような先行研究があるか把握すると同時に体系的に理解し、心理学におけるマンガに関する研究の方向性・可能性について展望する。心理学的視点でマンガを読むことの意義、マンガに関する心理学的研究の概観について理解できることを目的とする。

「アートと心理療法」

臨床アートセラピーの基本的な理論に触れ、臨床場面においてアートを用いる際の援助者のあり方を学ぶ。一方的な分析や解釈ではなく、作品や創作プロセスから何を読み取り、それをどのように心理臨床場面に生かすかを考える。講義で得た理論的知識について演習を通じて体験的に理解し、さらにグループ・ディスカッションで振り返ることで、言語と非言語、理論と体験の両側面から心理的ケアにおけるアートの役割を学ぶ。

「人体の構造と機能及び疾病」

医療の分野において患者の心理を理解し、他職種や家族と協力しながら患者を支援するための臨床心理学的知識を学ぶことを目的とする。そのために、心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害について学び、がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病について理解を深める。また、そうした疾病に罹患した患者に対する心理学的アプローチの重要性を理解し、適切に支援する力を身につける。

「精神疾患とその治療」

精神疾患総論(代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む。)を学ぶことを目的とする。統合失調症やうつ病などの気分障害、あるいは種々の身体症状や不安症状、また人格障害など、精神医学が対象とする疾患の歴史的な変遷から現在もっとも多く使われている診断マニュアルである DSM までを総括的に学ぶ。また、治療について、向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について学ぶ。さらに、心理療法をはじめとする薬物療法以外の精神科における治療的関わりや、医療機関との連携などについても理解を深める。

「公認心理師の職責」

国家資格としての公認心理師に求められる職責について、以下の内容の理解を深め、公認心理師としての自覚を高めることを目的とする。授業は六名の教員によるオムニバス形式で行なわれる。① 公認心理師の役割、② 公認心理師の法的義務及び倫理、③ 心理に関する支援を要する者等の安全の確保、④ 情報の適切な取扱い、⑤ 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務、⑥ 自己課題発見・解決能力、⑦ 生涯学習への準備、⑧ 多職種連携及び地域連携。

「関係行政論」

公認心理師が活躍することが想定されている5分野(保健・医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働)に関する法律や制度について理解を深めることを目的とする。授業は6名の教員によるオムニバス形式で行なわれる。① 保健医療分野に関係する制度、② 福祉分野に関係する制度、③ 教育分野に関係する制度、④ 司法・犯罪分野に関係する制度、⑤ 産業・労働分野に関係する制度。

「心理演習」

以下に掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)を行い、事例検討で取り上げることを通じて、基本的な水準の知識及び技能の習得を目的とする。(ア)心理に関する支援を必要とする者等に関する以下の知識及び技能の習得(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援等、(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(ウ)心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、(エ)多職種連携及び地域連携、(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。

「心理実習」

保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者または教員による指導を受ける。実習により身につける事項は、(ア)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(イ)多職種連携及び地域連携、(ウ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解である。